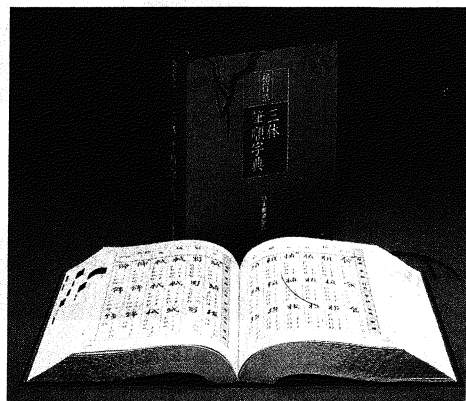


文 化



日本人はどんどん悪筆になっていないだろうか？ 周囲を見渡しても、ミスがのたつたような字を書く大人が増えていく。もちろん「悪筆」と「達筆」に客観的基準があるわけではないから、あくまで印象にすぎない。ただ、看過しがたい状況のように思える。長年にわたって多くの筆跡を見つけてきた日本筆跡診断士協会会長の森岡恒舟さん(写真)を訪ねた。(桑原聡)

# お手本選びに間違いない



20万部を超える「隠れベストセラー」になっている「楷行草三体筆順字典」



「日本人の字は明らかに変質してきましたね」

冒頭、森岡さんは、そう指摘した。それは巷間言われているようにワープロ、パソコンの普及で字を書く機会が減ったからでしょうか。そう尋ねると、「根はもっと深いところにある」と話が続いた。

「昔は、たとえば弘法大師の字を手本にしていました。そこには優れた人格が込められており、これを手本とすることで人格の陶冶にもなりました。活字の手本では優れた

人格に触れることはできません」

手本の種類も問題だという。書体には、一画一画をきちんと書く楷書、続け書きをする行書、字形を大きく崩した草書などがある。

「日常的に使用するのには行書なのに、手本は楷書。これじゃあだめです。これに横書きの増加が追い打ちをかけてきた。横書きでは続け字が書けません。縦書きで右から左へ書いてゆくことで、初めて美しい文字が生まれるんです」

## 日本人と悪筆

最近あまり聞かなくなったが、一時期話題になっていた「変体少女文字」なども、そうした状況から生まれた鬼っ子といえるかもしれない。

### 小学校では行書を

「まずなすべきことは、小学校の段階で行書を手本とした教育を行うこと」と森岡さんは提言する。それでは、悪筆になってしまった大人たちはどうすればいいのだろうか。

「ひらがなの癖を直すことです。それだけで見違えるようになります。なぜなら、ひらがなは簡単なために妙な癖がついてしまいがちで、それが漢字にも悪い影響を与えるからです」

字の変質以上に森岡さんが懸念するのは、精神の変質だ。「横書きの普及によって、日本人は未来を考えなくなった」というのだ。たとえば、官僚が未来への視野を失い、前例主義で仕事をこなすようになったのは、公的書類を横書きにしたためでは、と森岡さんは推測する。

### 重要度を増す肉筆

日本人は、悪筆に平然としているわけでもないようだ。通信教育最大手のユーキャンによると、約160種類の講座の中で不動の1位は「実用ボールペン字講座」だという。

受講者は老若男女を問わないが、その中心は20代、30代の女性。年約10万人という申込者数は、この10年ほど変わっていない。さらに、同社が通信販売している「楷行草三体筆順字典」は1万9000円という価格にもかかわらず、刊行8年で20万部を超える「隠れベストセラー」になっている。

「日本人は筆跡によって書き手の教養を判断するところがあります。さらに肉筆を目にする機会が少なくなったために、慶弔用のし袋や履歴書の肉筆がより目立つようになっています。関心の高さはそうした理由によるものでは」と同社広報部は分析する。

筆跡に人柄が表れる―そんな発想が残る限り、日本人にとって書き文字の巧拙は気になることであり続けるはずだ。